

次期総合5か年計画の構成(素案)

【策定の趣旨】

(計画の位置づけ)
 ・概ね2030年頃の長野県の将来像を展望する長期ビジョン
 ・今後5年間の行動計画
 ・都道府県まち・ひと・しごと創生総合戦略

(計画期間)
 ・平成30年度～34年度(5年間)

【現状認識】

○長野県を取り巻く状況

1 世界規模の動き
 (1) 世界との結びつきの緊密化
 (2) 技術革新の急速な進展
 (3) SDGsなど持続可能な経済・社会・環境への気運の高まり

2 日本国内の動き
 (1) 急激な人口減少と東京圏への人口流出
 (2) 低成長経済の長期化による生活意識の変容
 (3) 貧困・格差の拡大
 (4) 人生100年時代へ
 (5) 広域交通ネットワークの整備
 (6) 東京オリンピック・パラリンピックの開催

○長野県の特徴

- 1 豊かな自然環境
- 2 大都市圏へのアクセスの良さ
- 3 多様な個性を持つ地域
- 4 全国トップレベルの健康長寿
- 5 自主自立の県民性

【将来像】

現行計画を基本として構築(バージョンアップ)

※ 以下は現行計画の表現

《基本目標》
 『確かな暮らしが営まれる美しい信州』
 (「学び」「未来志向」のニュアンスを加味)

《めざす姿》

- 1 世界に貢献する信州
 [世界との相互依存が深まる中で、地域の知恵や資源を活かして信州が世界に、そして他地域に貢献している。]
- 2 「豊かな」ライフスタイルを実現する信州
 [自然や伝統と最先端の技術が調和した、ゆとりある暮らしやすい信州となっている。]
- 3 誰にでも居場所と出番がある信州
 [誰もが等しく社会からその存在を認められ、自らの可能性に挑戦し、自分らしく生きている。]
- 4 健康長寿世界一の信州
 [世界に誇れる健康長寿先進県が、将来にわたり継承・発展している。]
- 5 一人ひとりの力を引き出す教育県信州
 [子どもから大人まで全ての県民が主体的に学び、個々の持つ能力を社会の中で発揮している。]

【5年間の政策の柱】

創造的な学びの推進
 [時代の変化に対応し、未来を切り拓くため、主体的に生涯にわたって学ぶ環境を整える。]

産業・経済の持続的発展
 [第4次産業革命に対応し、活発なイノベーションを促進することにより、足腰の強い産業構造と経済活力を創出する。]

健康と安全の確保
 [豊かな自然環境の中で、安全・安心で健全に生活することが出来るよう、人の命を徹底的に守る。]

新しいライフスタイルの実現
 [人生100年時代に向け、持続可能で自分らしい暮らしを選択できる仕組みを構築する。]

地域力(・自治力)の向上
 [個人・団体・行政が主体的に、かつ協働して取り組む地域をつくる。]

【政策の推進】

《重点プロジェクト》(検討例)

- ・中山間地域の特性とICTを活かした「最先端の学び」の実践
- ・県立社会教育施設(図書館、歴史館等)のセンター的機能の強化、公民館など学び合い活動のプラットフォーム構築
- ・大学を核として地域の企業や研究機関が連携する産業・研究クラスターの形成
- ・信州大学等と連携した自然・野外教育プログラムの開発・普及
- ・林業大学校の専門職大学への移行検討など人材育成機関の高度化 など

《総合的に展開する施策》

- ・「信州の食」の価値向上と発信
- ・果樹・野菜の市場の期待が高い品目への転換、長期出荷体制の構築
- ・スマート林業や木工芸品のデザイン性向上など林業・木材産業の成長産業化、人材育成機関の高度化・連携強化 など
- ・自助・共助・公助を組み合わせた住まいの災害対策、広域的な防災拠点の整備
- ・屋根ソーラーの拡充など自然エネルギーの導入加速、環境エネルギー分野の産業化支援
- ・SOSの出し方教育など若者の自殺予防の強化、通学路の総点検など交通事故防止対策の徹底
- ・専門人材による県文化施設の企画・運営力強化
- ・出産から子育て、就学、就業まで切れ目なく支援する体制の構築
- ・2027国体・全国障害者スポーツ大会に向けた競技力向上 など
- ・地域の健康課題をデータで見える化し、健康づくりや医療の充実に活用

《地域づくりの応援》

- ・地域振興局を核とした地域課題の解決
- ・人的・財政的支援

《10の地域経営方針》

- 地域をめざす姿
- 地域重点政策

《計画の推進力向上》

- 1 県民起点の働き方改革・しごと改革の実践
- 2 行政経営を支える組織・人材・財政づくり
- 3 地域を支える市町村との協働
- 4 政策評価による実効性確保

※ 信州創生戦略の基本目標も踏まえ、数値目標を設定